

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	Nguyen Thi Thuy
審査委員	主査 鹿児島 大学 教授 岩元泉
	副査 鹿児島 大学 准教授 坂井教郎
	副査 佐賀 大学 教授 小林恒夫
	副査 鹿児島 大学 教授 秋山邦裕
	副査 琉球 大学 教授 内藤重之
審査協力者	
実施年月日	平成26年 1月 11日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <input checked="" type="radio"/> 答・筆答	
<p>主査及び副査は、平成26年1月11日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（農学）の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者
氏名

Nguyen Thi Thuy

〔質問1〕 出稼ぎのインパクトは遠隔地の方が大きいのではないかと？

〔回答1〕 遠隔地の方が出稼ぎの経済効果が大きいですが、リスクも大きい、その意味ではインパクトが大きいと言える。

〔質問2〕 文献レビューをしているが、本研究のあたらしい点は何か？

〔回答2〕 第一は農村からの労働移動のうち、農家世帯のみを取り出してその影響を検討したこと、第二は、出稼ぎ者の属性に立ち入って出稼ぎの影響を分析したこと、第三は、純農村と大都市に近い農村との出稼ぎについて比較検討したことである。

〔質問3〕 出稼ぎ地帯ではもともと農作物は何を作っていたのか、それが出稼ぎ前後でどのように変化したのか？

〔回答3〕 紅河デルタでは稲二毛作と冬作物の組み合わせがほとんどであり、調査地もほぼ同じ作物であるが、細かくは調査していない。出稼ぎ前後での作物に変化はないと思う。

〔質問4〕 出稼ぎ農家と出稼ぎしていない農家での農業生産の違いはあるか？

〔回答4〕 その比較は本調査では行っていない。

〔質問5〕 若い人が出稼ぎしているほうが農業所得が低いということと、近いところに働いているということとはどう関係するのか？

〔回答5〕 出稼ぎ者のデータにはハイズン省とタイビン省が混ざっているので、分かりにくいですがタイビン省のほうが若い人が出稼ぎしていて、そういう人はあまり農業に従事しないので、農業所得の減少度合いが大きい。

〔質問6〕 タイビン省のほうが遠くに働きに行っているのに、農業所得が減らないというのはどう説明するのか？

〔回答6〕 タイビン省の出稼ぎ者は早くから出稼ぎし、長年出稼ぎをしているので農業を続けながら出稼ぎすることに慣れていること、また日雇労働などの不安定就業なので農業にも従事しなければならず農業所得も必要としている

〔質問7〕 それと矛盾するが、ホーチミンへの出稼ぎ者は農業所得が比較的低くなっているが。

〔回答7〕 遠隔地でもホーチミンだと日頃戻ってこれないので農業所得が低くなる傾向にある。

〔質問8〕 スライド25でみると、世帯主が出稼ぎしている場合と息子が出ている場合とで農業所得への影響が大きく出るのではないかと？

〔回答8〕 その通りだと思うので、さらに分析したい。

[質問9] 村のリーダーの意見を聞いているが出稼ぎに否定的な意見が多いし、また結論部分でも出稼ぎについて否定的評価が多いが、論文でも出稼ぎに否定的なのか？

[回答9] タイビン省の村のリーダーの意見に否定的意見が多いのだが、タイビン省の出稼ぎが早くから起こっていたので村の行事などへの影響が大きく、否定的な意見が多かったのだと思う。論文ではむしろ出稼ぎは農村家庭の就業戦略であるという立場に立っている。

[質問10] その否定的な評価に対して農村でのパートタイム労働機会を増やすべきだという示唆になっているが、パートタイムを増やすという結論でいいのだろうか？

[回答10] 特にタイビン省の場合では、出稼ぎ者は年齢の高い層が多いのだが、それを地元で就業先を見つけようにも導入した農村工業は若い訓練された労働者を雇用しがちで19歳から35歳くらいまでしか雇わない。したがって出稼ぎ者の就業先としてはパートタイムを増やしたほうが出稼ぎ者にとってはいいということになる。

[質問11] 全体的に理論的な検討をさらに加えたほうがいいのではないか。たとえば日本の労働市場研究ではプッシュ要因とプル要因を分けて分析を行っている。もっとプッシュ要因を明確にしたほうがよいと思う。

[回答11] 今回の研究ではその点は本文で記述しているが分析はしていないので今後の課題としたい。